

景況レポート

(6月分・情報連絡員80名)

一部の製造業において受注が好転

【概況(全体)】6月分の県内景況は、業界全体の景況DI値が-22.5と前月調査と比較して3.8ポイント下回り、4ヶ月ぶりに悪化した。

製造業では、繊維工業において受注状況が好転しているほか、機械金属や鉄鋼においても各種工事の発注により売上・収益が好転するなど製造業全体の景況を底上げしたが、前月に引き続き原材料価格や仕入価格の高騰分を販売価格へ転嫁できず、厳しい経営状況にある業界も見受けられた。

また、非製造業では、電機や自動車整備など一部の業種においては消費税増税後の反動減を脱しつつあるが、需要の減退や個人消費の低迷により景況悪化を訴える業種もあるなど、業種間に景況の差が生じており、引き続き今後の動向を注視していく必要がある。

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり 10未満
 雨 10以上 30未満
 雷雨 30以下
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

【概況(製造業)】製造業の景況DI値は-6.3と前月調査と比較して3.1ポイント上回り、4ヶ月連続で改善した。

繊維工業では円安による生産拠点の国内回帰等により受注が増加傾向にあるほか、機械金属や鉄鋼においても公共工事や民間工事が動き出したことにより受注が増加し、売上、収益ともに前年同月比で好転した。

一方、食料品や印刷では原材料価格や仕入価格の値上がりにより、収益の確保が課題となっている。

【概況(非製造業)】非製造業の景況DI値は-33.3となり、前月調査と比較して8.3ポイント下回った。

電機では、顧客からの問い合わせが増加したほか、秋田県でLED補助金の募集を開始したこと等により照明器具の販売は順調に推移している。

また、自動車整備では、自動車検査台数が前年同月比で1割強増加しており、消費税増税後の落ち込みから回復しつつある。

一方、自動車販売では、軽自動車税の増税の影響により、軽乗用車の販売台数は落ち込んでいる。

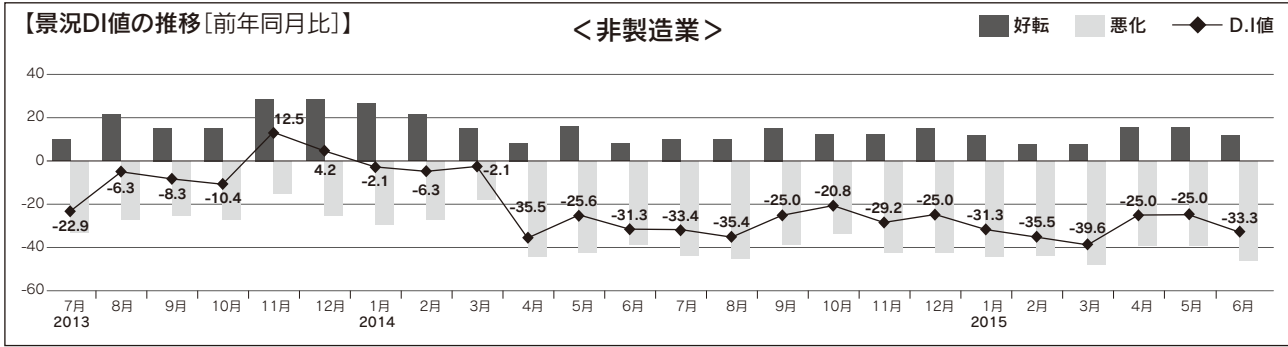
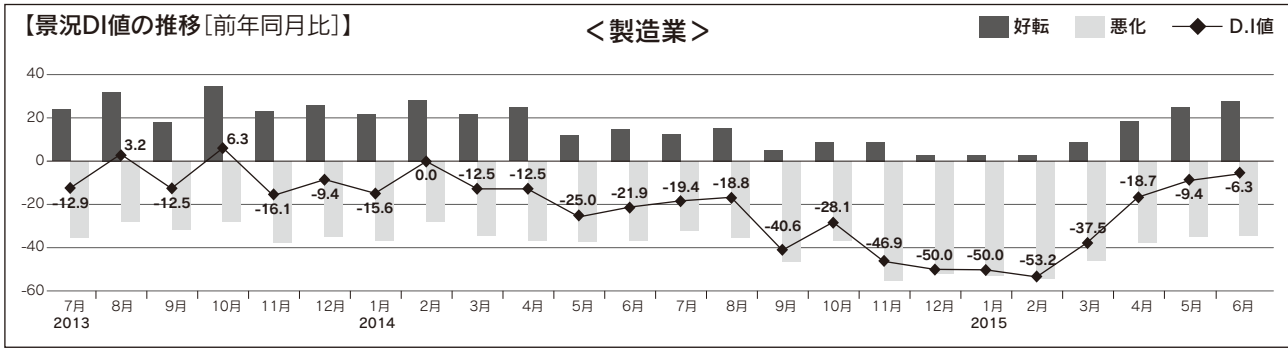
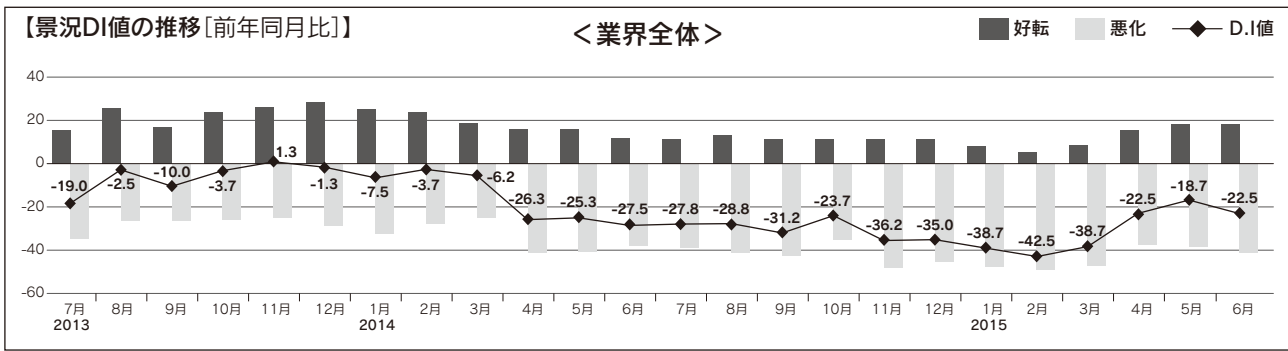
なお、一般建築や管工事、砂利では、公共工事の発注が低迷していること等により、前年同月比で受注が減少し、景況が悪化している。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	売上については下げ止まり感があるが、円安の影響により原料である大豆や包装資材等が値上がりしており、経営環境は悪化している。
繊維製品 (繊維)	国内工場の減少や生産拠点の国内回帰等により、各工場とも順調に受注を確保している。一方、一部の工場では加工賃の交渉について課題が残るが、全体としては前年同月比で業況は好転しつつある。
木材・木製品 (一般木材)	受注が安定しないことに加え、製品単価について引き下げの要請が強く収益状況は悪化している。また、戸建住宅の着工減少など業界の先行きは不透明であり、景気回復の実感はない。
印刷	消費税引き上げに伴う消費の落ち込みは依然として回復しておらず、価格転嫁も難しい状況にある。併せて円安による諸材料の値上げが進んでおり、総体的に景況が回復しているという実感はない。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	6月の出荷数量は前年同月比85%前後、4月～6月の累計では前年比80%で推移した。特に、秋田中央地区と本荘由利地区での落ち込みが激しく、出荷数量の少ない状況の中での価格下落も懸念される。
鉄鋼・金属 (機械金属)	6月に入り公共工事の発注が増加し、各社とも前年同月比で受注増加となった。また、公共工事に加え民間工事の需要もあるため、収益状況も好転しつつあり、景気回復の兆しが感じられる。
一般機器 (金属加工)	売上は前年同月比で増加しているが、ここ数ヶ月間は横這いで推移している。業況は活発であるが、短納期で多品種の加工が多く、収益面における改善は見られていない。
その他の製造業 (漆器)	5月の行楽シーズンに続き、6月は小町まつりのほか、町内会等の視察旅行も多く来館者・体験者ともに増加し、前年同月比で売上増加となった。また、秋田県から大量の酒器の製作を受注しており、産地の活性化に繋がっている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (商業卸)	一部の企業では前年同月比で売上が増加しているが、横這いもしくは減少となっている企業が多い。なお、仕入コストの上昇分を販売価格に転嫁させるのが困難な状況である。(秋田市)
卸売業 (青果)	6月の売上は、前年同月比116.9%で推移した。一部地域で局地的な大雨の被害が見られたが、全体的には水不足により野菜の出荷量は相変わらず少ない状況のため、価格が高騰している。なお、在庫量も少ないため廃棄量が減少し、収益面ではプラスとなっている。
小売業 (自動車販売)	6月の新車販売台数は、登録自動車が2,065台(前年同月比97.2%)、軽自動車が2,090台(同82.4%)となり、合計4,155台(同89.1%)であった。軽自動車税の増税の影響により、軽乗用車の販売台数は落ち込んでいる。
小売業 (電機)	顧客からの問い合わせが増加したほか、各メーカーによる合同展示会開催や、顧客巡回・面談、アフターフォロー等の実施により忙しい月となった。また、秋田県でLED補助金の募集が開始されたため、照明器具の販売は順調に推移している。一方、エアコンの販売台数は前年同月を下回っており、不安が残る。
商店街	大手スーパーの閉店により、商店街の魅力減少に伴う通行量・来店者数の減少、売上の減少等マイナスの影響が大きい。(鹿角市)
サービス (旅行)	国内旅行の売上は前年同月比128.6%、海外旅行は同90.0%と好調に推移した。また、「秋田市プレミアム付き商品券」の使用に関する問い合わせもあるなど、今後に期待感をもってしている。
建設業 (管工事)	前月同様に資材の動きが例年よりも鈍い中で、工事発注も低迷しており、業況は前年同月比で悪化している。(由利本荘市)
運輸業 (トラック)	6月の荷動きは低迷したが、前月と比較すると多少回復した感があり、売上・収益とも前年並みで推移した。また、燃料価格は前年同月比で安値で推移しているため、売上が低調な割に収益は回復傾向にある。(県南地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	公共工事、民間工事ともに低調に推移しており、骨材の荷動きは前年同月比で大幅に落ち込んでいる。(県南地区)